

アサツキ(雪中アサツキ)

1, 解説

アサツキは、県内各地に自生しており特に会津地方に多い。

県内のアサツキ栽培は、二本松市安達町が最も栽培が多く、会津地方各地でも栽培されている。

もともと自生したものを栽培した産地と他地区から導入した産地とがあるが、品種は明確に分類されていないが安達地区の系統は「八つ房」と呼ばれることもある。

アサツキ栽培は露地とハウスで行われており、それぞれ荷姿が異なる。

露地栽培では晩冬に株を掘上げ、葉が短かく鱗茎が曲がった「鷹の爪」型の荷姿になる。会津地方では雪の下から収穫するため「雪中アサツキ」とも呼ばれる。

ハウス栽培では、保温することによって葉を伸長させ、葉ネギのような荷姿となる。

2, 写真



植え付け後に葉が伸長した姿 (県内6系統)



10月頃(生育中)の様子



冬の低温により地上部は枯れる
(安達町油井地区)



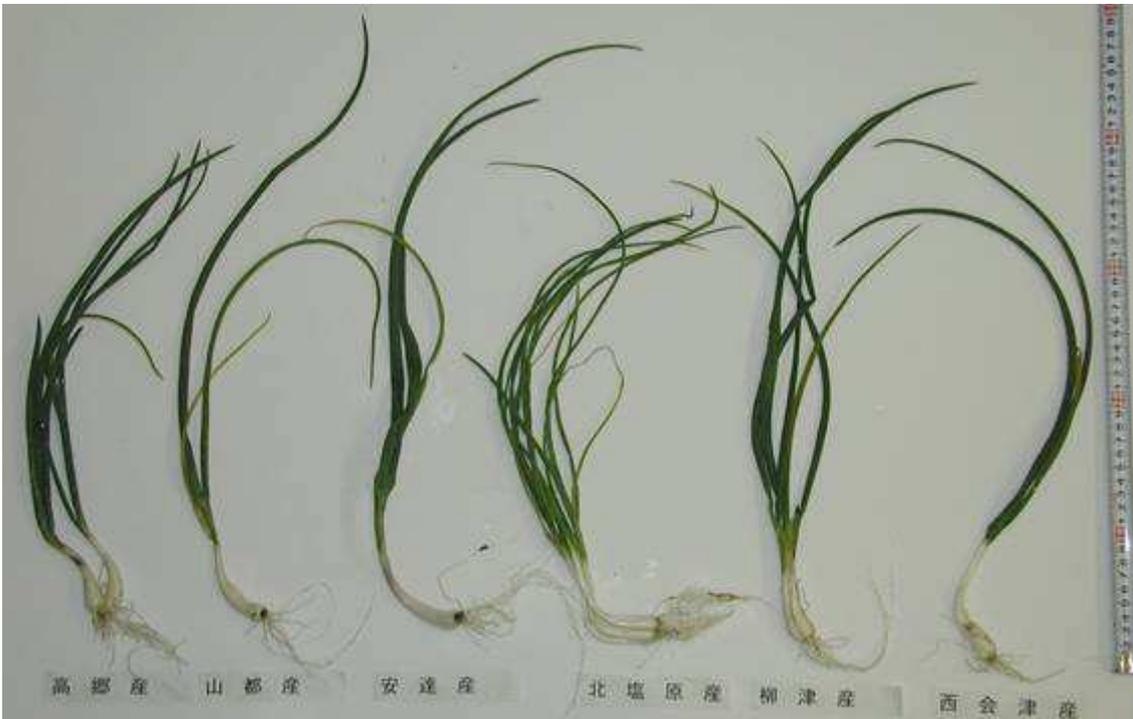
ハウス栽培
(安達町油井地区)



ハウス栽培での萌芽状況
(安達町油井地区)



春先の萌芽 (露地栽培)



春萌芽後の姿 (県内6系統)



蕾 (県内5系統)



出蕾期



花



開花後は地上部が枯死し夏休眠する



露地栽培の荷姿



露地栽培のアサツキ

(収穫後半の姿、厳冬期は葉がほとんど無い)



ハウス栽培の荷姿



ハウス栽培のアサツキ

3. 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・種子（種球）は自家採種で行われている。
- ・種子の組織的な採種、販売は行われていない。